

●活用プランA 「土器からみる縄文・弥生・古墳の三時代における社会変化」

＜センター準備物＞

- ・縄文・弥生・古墳時代の土器
- ・各時代を象徴する遺物や遺構の資料カード
- ・ワークシート
- ・土器の3Dモデルデータ（グループワークで端末を使用する場合）
- ・共有用ワークシート

＜学校現場での準備物＞

- ・端末、共有フォームの作成
- ・グループ分け（3～4人）

小単元「縄文時代から古墳時代にかけて人々の生活はどのように変化したのだろうか」

- ・1時のめあて 「土器の観察から、違いや用途を考えよう」
 - ① 本時の学習課題を設定する（5分）
 - ② センター収蔵の土器を観察し、グループ（4人程度）内で各土器の特徴や違いをまとめ、時代順（縄文・弥生・古墳）について仮説を立てる（15分）
 - ③ 各グループで立てた仮説をクラス全体で共有し、その着目点に対する専門的な評価を行う（20分）
 - ④ 授業を振り返り、土器の時期的変化について自身の言葉でまとめる。（10分）
- ・2時のめあて 「遺跡・出土品から時代の変化を考察しよう」

「縄文→弥生」「弥生→古墳」の2グループ（各3～4人）に分け、土器の変化が生じた原因・背景について、資料カードや教科書を使いながら予想し、スライドにまとめる。同時に疑問に思うことを話し合う。

※「予想」「疑問」をセンターに共有する。
- ・3時のめあて 「自分たちで考察した内容を専門家と一緒に確認しよう」

2時で予想した原因・背景について他グループと共有し、後半でセンター講師による「予想」「疑問」への回答を行う（オンラインでの対応も可）。
- ・4時のめあて 「縄文時代から古墳時代への社会の変化を捉えよう」

縄文時代から古墳時代にわたって変化した「時代観」や「集団の在り方」についてまとめる。1～4時の振り返りを行う。

※センター職員による授業進行可。

◎土器に触れる1時のみを授業でご活用いただくこともできます。



▶ 石鏃 (せきぞく)

矢の先端に取りつける狩猟道具。



▶ 縄文土器 (じょうもんどぎ)

縄目文様のついた厚手の土器。
〈旧河道から出土〉



▶ 貯蔵穴 (ちょぞうけつ)

地中で保管されたドングリ。



▶ 足跡 (あしあと)

水田についた人々の足跡。



▶ 弥生土器 (やよいどぎ)

装飾の少ない薄手の土器。
〈集落遺跡から出土〉



▶ 分銅型土製品 (ふんどうがたせいひん)

用途不明の謎の土製品。
〈集落遺跡から出土〉



▶ 石包丁 (いしぼうちょう)

稲穂を摘み取る道具。
〈水田跡から出土〉



▶ 水田跡 (すいでんあと)

大規模な水田跡。



▶ 広鍬 (ひろくわ)

土を耕す道具。



▶ 竪穴住居 (たてあなじゅうきょ)

人々が住んでいた建物。



▶ 銅鐸 (どうたく)

マツリに使われた祭器。
〈集落遺跡から出土〉



▶ ト骨 (ぼっこつ)

動物骨を使った占いの道具。
〈集落遺跡から出土〉

資料カード案__活用プラン A「土器からみる縄文・弥生・古墳の三時代における社会変化」③

📍 こうもり塚古墳(総社市)



(土師器)

▶ 須恵器(すえき)

青灰色をした硬い土器。
〈古墳の石室から出土〉



📍 こうもり塚古墳(総社市)

▶ 横穴式石室(よこあなしきせきしつ)

古墳の側面に入口がある石積みの埋葬施設。



📍 土井遺跡(赤磐市)

▶ 人物埴輪(じんぶつはにわ)

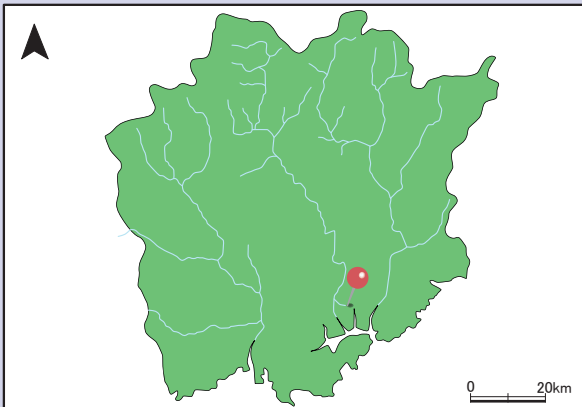
人をモデルにした埴輪。
〈窯跡の周辺から出土〉



📍 桑山 3 号墳(岡山市)

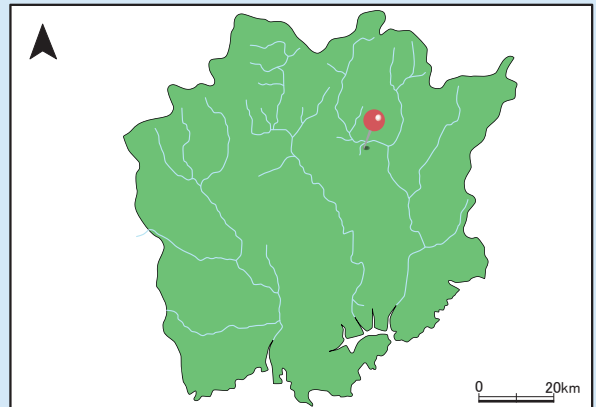
▶ 陶棺(とうかん)

粘土を焼いてつくった棺。
〈古墳の石室から出土〉



📍 原尾島遺跡(岡山市)

土器・石器・木製品・土製品・石製品・金属製品・
貯蔵穴・竪穴住居・掘立柱建物・環濠



📍 桑山南古墳群(津山市)

須恵器・土師器・大刀・鉄鏃・馬具・刀子・鉄釘・
耳環・玉類・陶棺・人骨